

拝啓 今回原子力委員会委員となりましたことについて専前に原子核特別委員会にお諮り致さなかつたのは程当てなかつたという御意見の方もあるように聞きますので私の考えておりますことを申し上げて御諒解を得たいと思ひます。

原子力委員の中で学界を代表するもの二名の中の一人として芳学術会議会長を通じて就任の交渉がありました際、私が第一に考えましたことは基礎物理学研究所長と原子力委員（非常勤）とが両立し得るかどうかという点でありましたが、原子力委員会はわが国における原子力研究の基本方針を決定することを任務と致しおるのに対し、基礎物理学研究所は原子力研究の開発という枠に入らぬい基礎研究を實行することを使命としておりますから原子力委員の職責と基研所長の職責とは一応別物であるという意味で両立し得るものと考えられます。勿論将来両者が互いに重なりあつたり干渉しあつたりする恐れが全くないとはいへませんが。例えば基研における研究が發展して原子力研究と密接なつながりを持つようになつてこないとも限りません。そのような場合には原子力研究の枠に入れる方が適當だと思はれるような研究は基研の外に出して他の適當な研

究機関で行つてもらふようにすべきであると思ひます。

それにしては實際問題として、基研所長と原子力委員という二つの重要な任務を遂行できるかどうか問題でありましたが、この点について大體支障がないであらうという見通しを得ましたので「基研所長としての職責が果せる限りにおいて非常勤の原子力委員をお引受けするが、できるだけ早い機会に基研所長の職務だけに専心できるようなにしてほしい」という希望条件を申し入れ諒解を得た次第であります。

次に私が原子核特別委員会の委員の一人であるにも拘わらず、同委員会の諒解を求めなかつたのは怪しからんというお咎めもあらうと思ひますが、これについては私は一応次のように考えていた次第です。

原子力問題はいうまでもなく原子核物理学と最も密接なつながりを持つていますがしかし他の学問の色々な分野へのつながりがあります。まず密接且つ廣汎となりつつあり、学界からの二名の代表は単に原子核物理学界をいしは物理学界の代表というよりもはるかに廣い意味を持つものと考えられます。従つて芳学術会議会長は学術会議内

の原子力関係の諸機関の意向を聞いて私に交渉されたものと諒解し私の進退を決したのであります。しかし私が現に基礎物理学研究所長であり、且つ、原子核特別委員会の委員の一人であるという面から見れば、全委員会にもお諮りするべきであつたという考え方にも理由があると思ひます。私には原特委を通じてあらわれる原子核研究者の意見を軽視しようというような気持は少しもありません。しかし僅か四名しかない原子力委員の一人として国民が納得するような発言をするためには私が単なる原子核研究者の代表であるという印象を与えない方がよいという考慮も必要であつたと信じます。この点についての私の苦しい立場を御諒察下され私の至らなかつた点は何卒御寛容下さるようお願いする次第です。

しかしそういつても私が原子核研究者の一人であることには変わりはないのであります。皆様の御鞭撻、御批判なくしては私が原子力委員としての職責を果してゆくことはできないのでありますから何卒私の力に余る重荷に堪えてゆけるよう今後も御支援下さるようお願い申上ります。

昭和三十一年一月十日

湯川 秀 樹

原子核特別委員会
委員各位